

2026年3月期 第1四半期決算補足資料 (2025年4月－2025年6月)

2025年8月5日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)



2026年3月期 第1四半期概況

中期経営計画で掲げた方針が着実に進捗、営業利益は経営統合以降、**1Q実績最高となる94億円**を達成

- 水産資源セグメント: 漁業ユニット、北米ユニットの損益改善
- 食材流通セグメント: 水産商事ユニットの欧州事業好調(グローバル戦略推進)
- 加工食品セグメント: 加工食品ユニットのペットフード事業好調維持

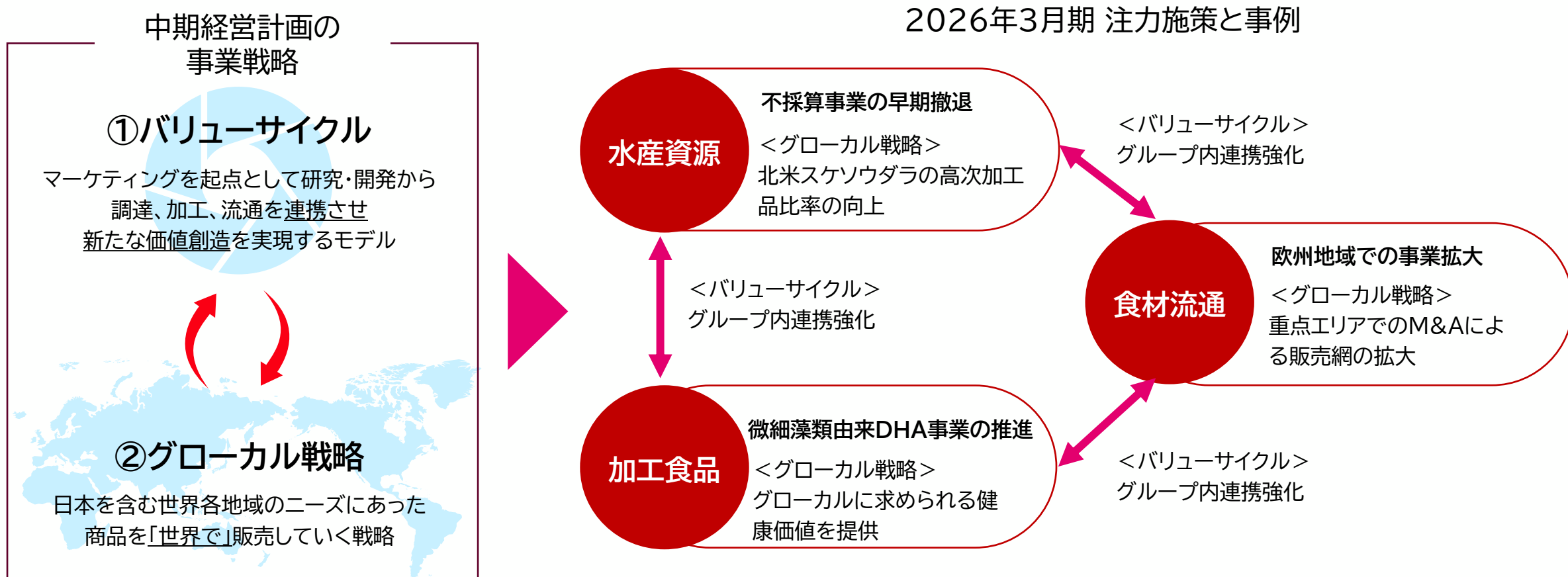
(単位: 億円)

	26年3月期 1Q	25年3月期 1Q	前年対比	
			増減	増減率
売上高	2,636	2,569	67	+2.6%
営業利益 (営業利益率)	94 (3.6%)	77 (3.0%)	18	+23.1%
経常利益 (海外経常利益比率)	93 (48.5%)	99 (28.6%)	△ 5	△5.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	65	65	△ 0	△0.6%
期中平均為替レート	26年3月期1Q	25年3月期1Q		
米ドル	152.95円	147.87円		
ユーロ	160.74円	160.90円		
タイバーツ	4.51円	4.17円		

(参考・再掲)中期経営計画の事業戦略及び2026年3月期の注力施策

※2025年5月12日開示「2025年3月期 決算短信補足資料」より

中期経営計画で掲げた「バリューサイクル」「グローバル戦略」の具体的な施策をスタート

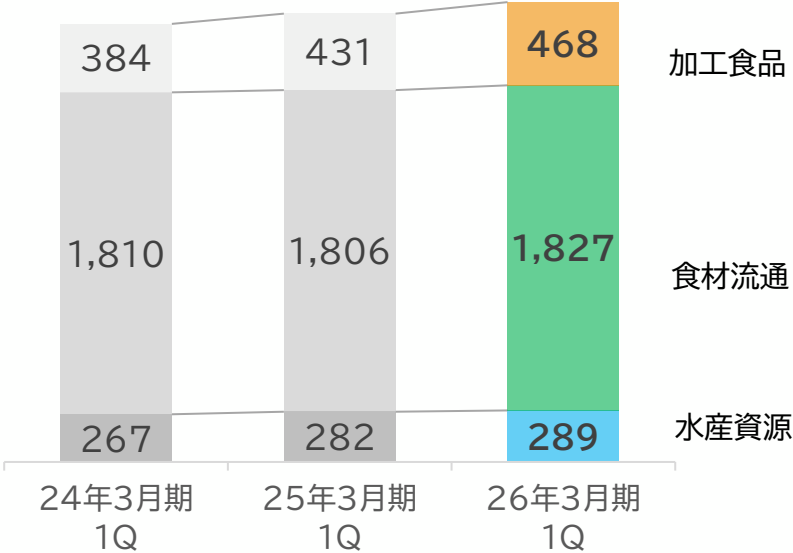


決算ハイライト② セグメント別概況

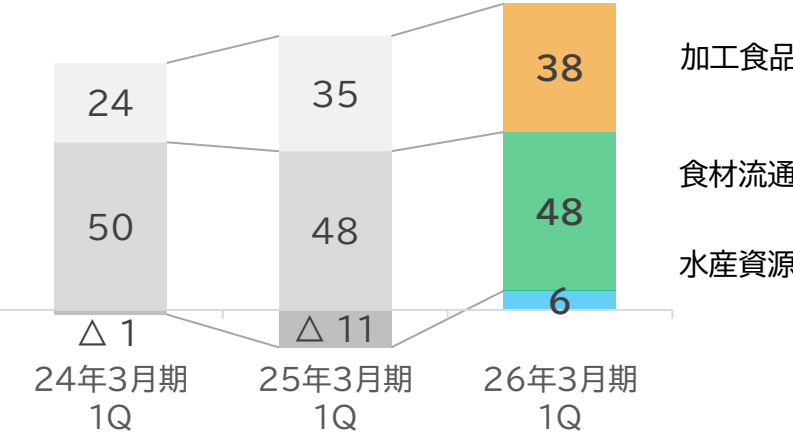


(単位:億円)

売上高



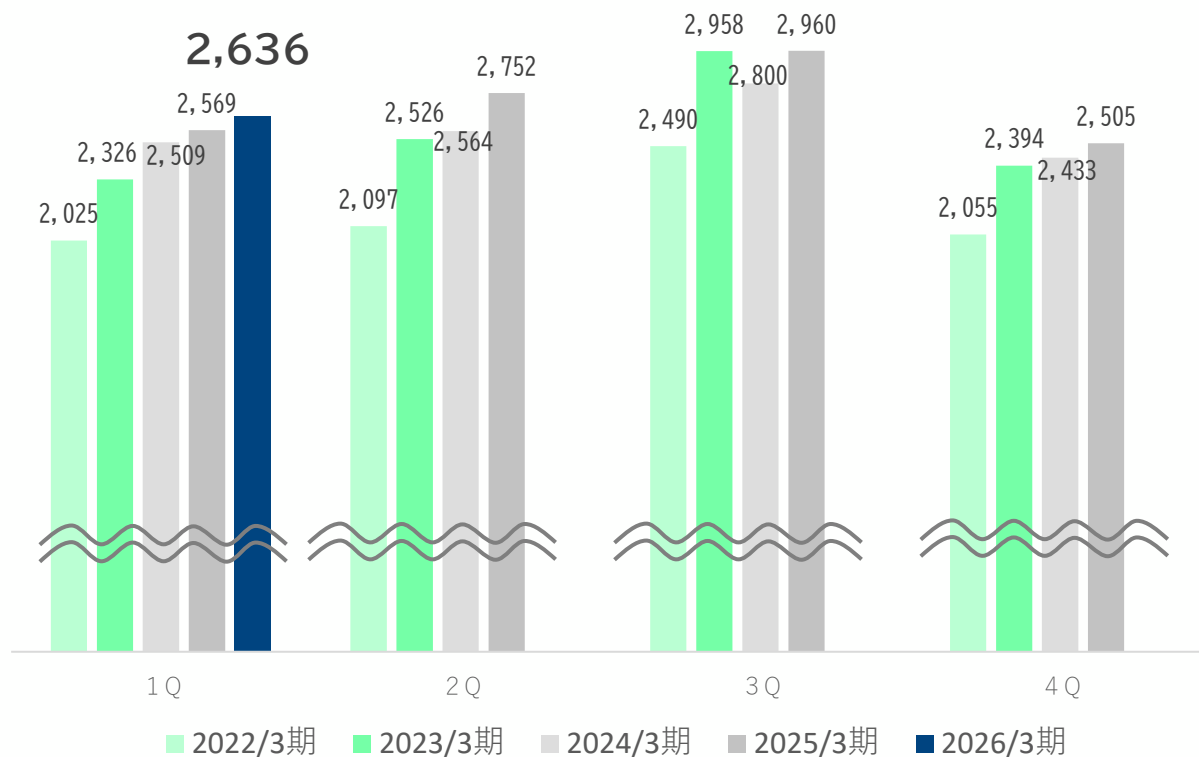
営業利益



水産資源	増収増益(セグメント利益6億円 前年比+17億円) 北米ユニットの主力商品の相場好転及びコスト削減策の推進による収益改善や漁業ユニットでの操業効率改善などが奏功し、全体で増益。
食材流通	増収・利益前年並み(セグメント利益48億円 前年比+0億円) 水産商事ユニット(欧州)が好調継続も、一部事業の収益構造の見直しやコスト上昇などが影響し、全体では営業利益は前年並み。
加工食品	増収増益(セグメント利益38億円 前年比+4億円) ペットフード事業(タイ)の主に北米向け販売向けの好調継続により、全体で増益。

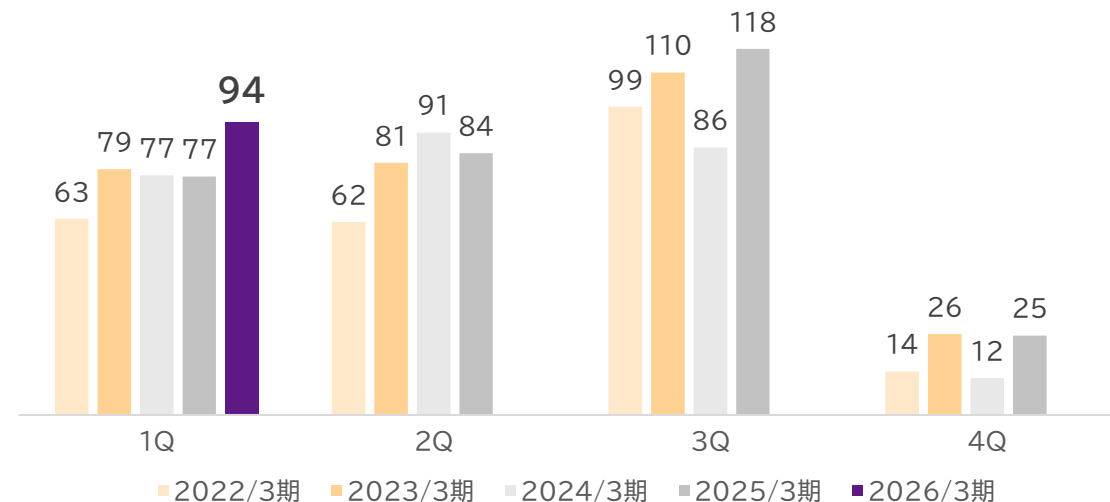
営業利益は1Qとして過去最高、また四半期ごとに季節要因はあるも安定して利益成長を確保

売上高



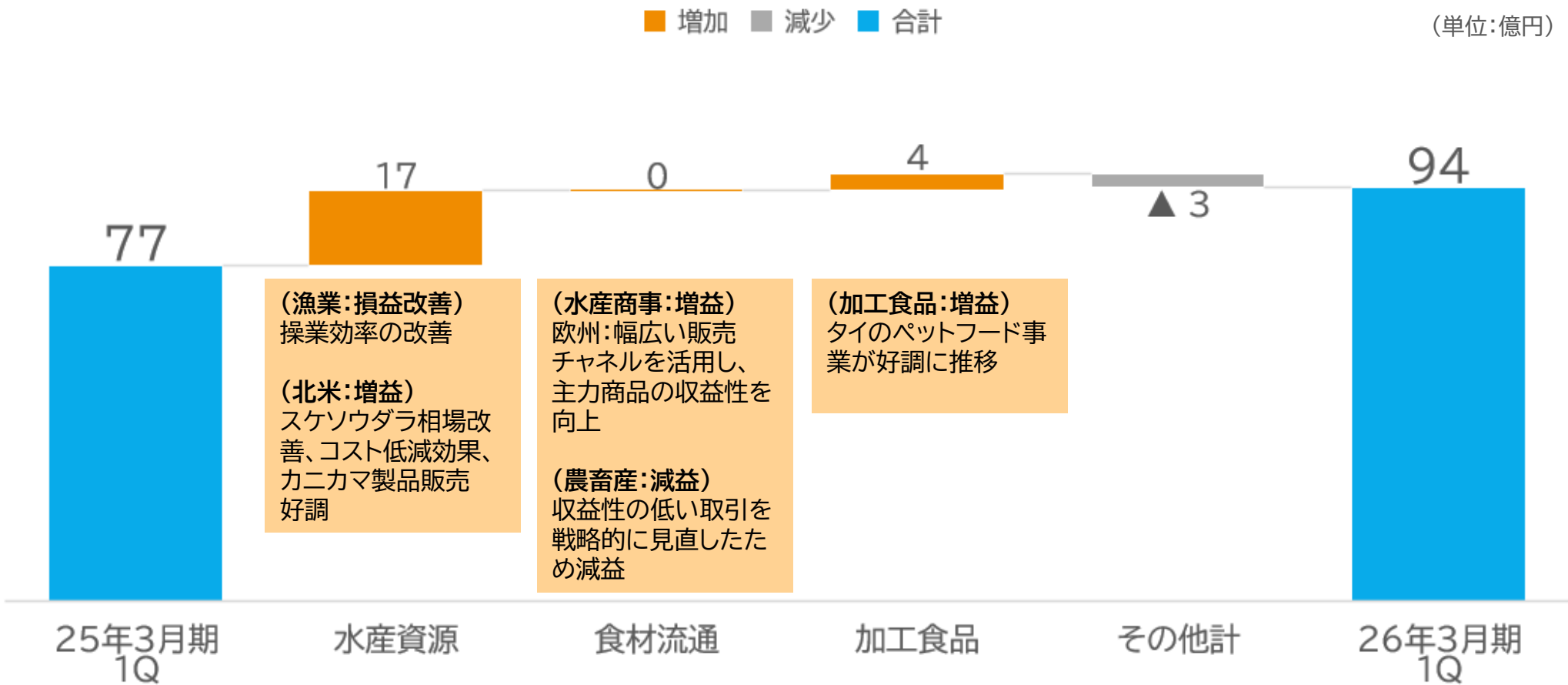
営業利益

(単位:億円)



営業利益の増減要因(前年対比)

水産資源セグメントが大幅改善、食材流通セグメントは前年並みも加工食品セグメントは堅調



中期経営計画で掲げた北米の収益改善や漁業の操業効率改善により、全体で17億円増益

(単位: 億円)

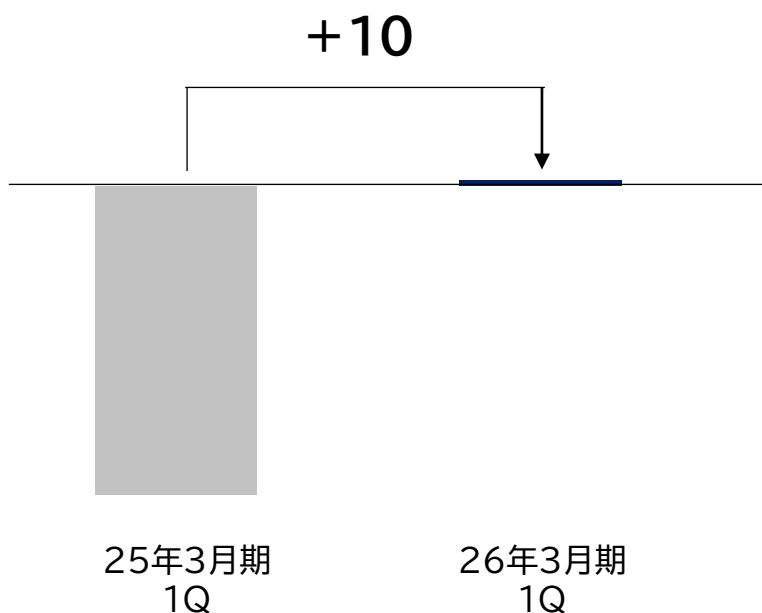
	ユニット	26年3月期 1Q	25年3月期 1Q	前年対比	
				増減	増減率
売上高	漁業	80	89	△ 9	△10.1%
	養殖	45	40	5	+13.5%
	北米	163	153	10	+6.5%
	セグメント計	289	282	6	+2.2%
営業利益	国内	△ 2	△ 3	1	—
	海外	8	△ 8	16	—
	セグメント計	6	△ 11	17	—
	営業利益率(%)	2.0%	—	—	—

ユニット	1Qの状況
漁業 (減収損益改善)	ミクロネシア海域のカツオの漁獲減、オーストラリアのエビ販売減。ニュージーランドのアジ、オーストラリアのスナッパー、カナダ沖カラスガレイは漁獲増、インド洋のキンメダイ事業からの撤退により損益改善。
養殖 (増収減益)	ブリ・カンパチの販売価格の上昇により増収も、飼料代高騰、昨今の高水温による成長遅れなどによる原価上昇が大きく、減益。
北米 (増収増益)	スケソウダラの相場改善に加え、生産体制の見直しによるコスト低減効果や、カニカマ製品の販売好調とコストダウンが寄与し、増収増益。

操業効率改善などにより昨年対比で1Qは大幅な赤字から黒字へ大きく改善

(単位:億円)

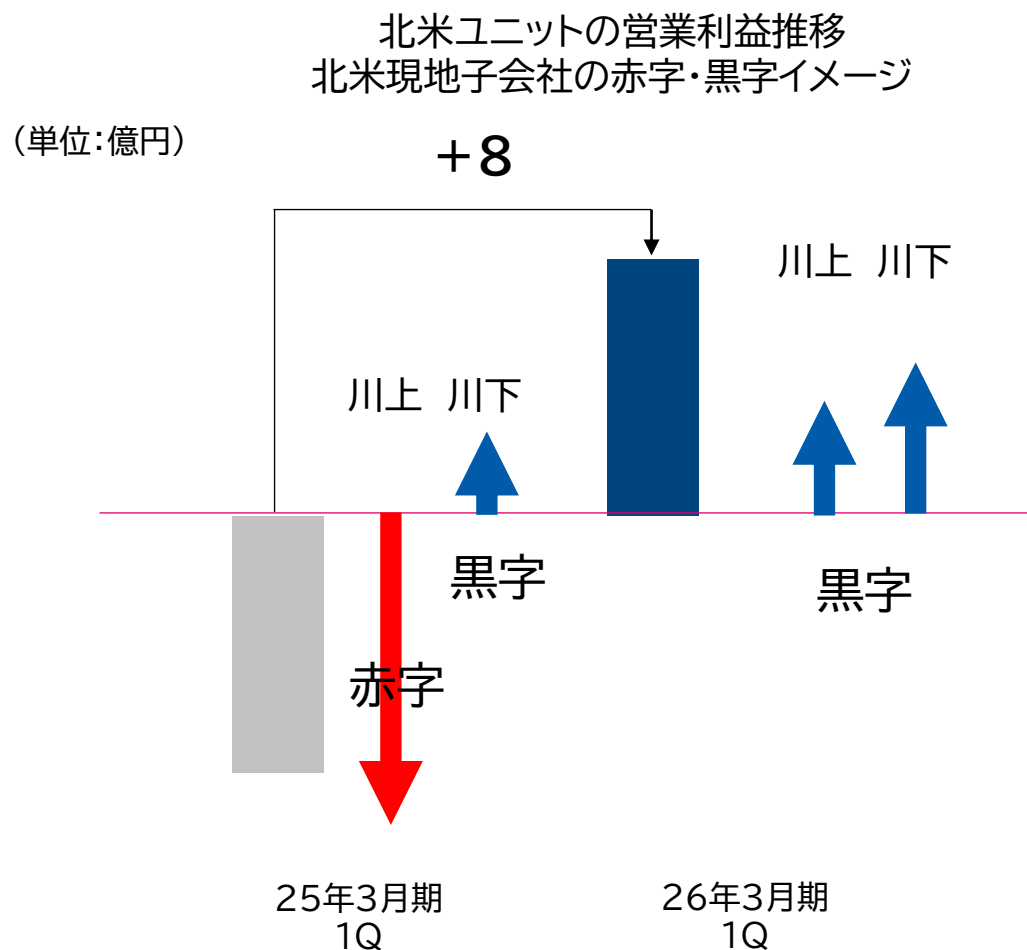
漁業ユニット 営業利益推移



< 操業効率の改善・不採算事業の撤退 >

- ニュージーランドの操業計画見直しによるアジなどの漁獲増
- オーストラリア スナッパー漁の操業体制見直しによる効率化
- 採算性が悪化していたキンメダイ事業(インド洋)、マグロ延縄事業から撤退
- カナダ沖カラスガレイ漁スタートの早期化

前期はスケソウダラ相場軟調により苦戦も、1Qは特に川上が赤字から黒字へ大きく改善



<川上(調達・一次加工)の取組み>

- スケソウダラ相場が回復傾向
- カニ製品の販売復調
- 生産拠点の統合などによる生産コスト低減

<川下(高次加工)の取組み>

- カニカマ製品のリテール販売が好調に推移

<ご参考>

2025年7月に水産資源セグメントに特化したスモールミーティングを実施、北米ユニット概要について記載しています。ぜひご参照ください。

資料は[こちら](#)

2026年3月期 第1四半期概況:食材流通セグメント



水産商事が好調も、コスト上昇や畜産事業の収益構造見直しもあり、営業利益は前年並み

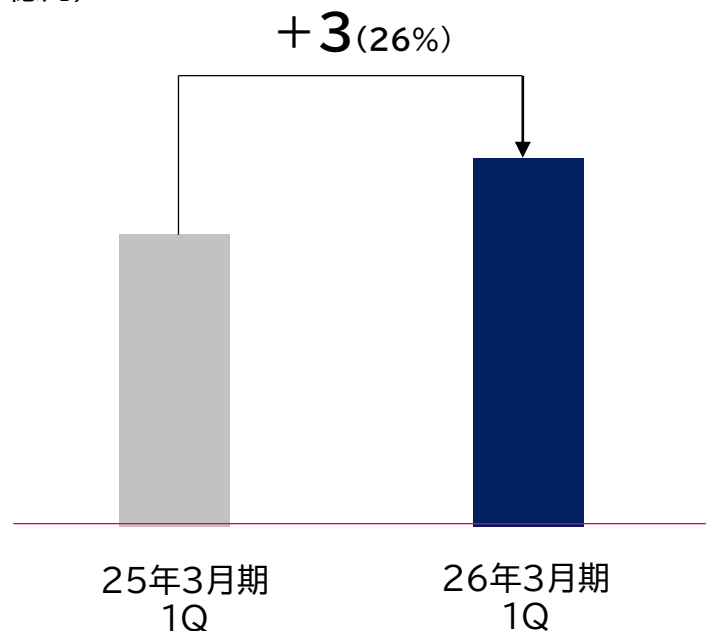
(単位: 億円)					
	ユニット	26年3月期 1Q	25年3月期 1Q	前年対比	
				増減	増減率
売上高	水産商事	1,023	971	52	+5.3%
	食材流通	610	585	26	+4.4%
	農畜産	194	251	△ 56	△22.4%
	セグメント計	1,827	1,806	21	+1.2%
営業利益	国内	33	36	△ 3	△8.4%
	海外	14	11	3	+27.2%
	セグメント計	48	48	0	+0.1%
	営業利益率(%)	2.6%	2.6%	△ 0.0	—

ユニット	1Qの状況
水産商事 (増収増益)	<国内> 凍魚加工品、ホタテ、エビ、マグロ類など水産物全般の販売単価上昇により、増収増益。 <欧州> 外食、量販店、加工業者向けの幅広い販売チャネルを活用し、主力商品の収益性を高めたことで、増収増益。
食材流通 (増収減益)	グループ内連携を強化し、市場変化に応じた業態ニーズを捉えて販路を拡大したことで増収。 一方、業務効率の改善や生産性向上に努めたものの、生産コスト上昇分を補いきれず、減益。
農畜産 (減収減益)	将来の利益率向上を見据えて効率的な事業運営体制への転換を図る一環で、収益性の低い取引の見直しを徹底したことから減収減益も、想定内の水準で推移。

商品の収益性改善により26%増益、2Q以降は買収した子会社連結も寄与の見込み

欧州事業 (シーフードコネクショングループ) 営業利益の推移

(単位:億円)



現況

今後

<欧州事業> オランダを拠点として欧州全域の量販店や水産物加工会社に水産資源の原料や一次加工品を提供。2013年6月からグループに参加、その後企業買収などを通じて急速に事業を拡大。売上高約1,200億円、営業利益約60億円(2025年3月期実績)
(子会社名:Seafood Connection Holding B.V.=SCH)

- 欧州市場において主力商品の相場が上昇
 - 外食、量販店、加工業者向けに幅広い販売チャンネルを展開しており、需要動向に柔軟に対応しつつ、継続的に収益性を向上
- SCHの当社出資比率を70%→81.96%にアップ
 - ガバナンスの強化及び親会社株主に帰属する当期純利益へ貢献

- 買収した水産加工販売会社のVDLグループ※について
 - ✓ 2Qから営業利益に貢献(今期約6億円の見込み)
 - ✓ グループ内販路や生産設備の共有・活用などシナジー検討、推進

※2025年5月に買収を決議したVan der Lee Seafish Beheer B.V. オランダ拠点

2026年3月期 第1四半期概況:加工食品セグメント



ペットフード事業(タイ)の主に北米向け販売が好調に推移し、全体で4億円(11.5%)増益

(単位:億円)					
	ユニット	26年3月期 1Q	25年3月期 1Q	前年対比	
				増減	増減率
売上高	加工食品	448	412	36	+8.8%
	ファインケミカル	20	19	1	+2.7%
	セグメント計	468	431	37	+8.5%
営業利益	国内	12	15	△ 3	△20.6%
	海外	27	20	7	+35.8%
	セグメント計	38	35	4	+11.5%
	営業利益率(%)	8.2%	8.0%	0.2	—

ユニット	1Qの状況
加工食品 (増収増益)	ペットフード事業(タイ)の主に北米向け販売が好調。国内主力商品の販売好調、価格改定を2025年2～3月に実施。
ファインケミカル (増収減益)	ヘパリン販売が堅調で増収も、サプリメント向けの販売の減少で減益。

連結貸借対照表

(単位:億円)

	25年6月末	25年3月末	増減	主な内容(前期末比)
流動資産	4,415	4,146	269	現預金(+5)、売上債権(+73)、 棚卸資産(+161)
固定資産	2,728	2,666	62	有形固定資産(+20) 無形固定資産(+16) 投資有価証券(+16)
資産合計	7,143	6,812	331	
流動負債	2,746	2,369	377	仕入債務(+77) 短期借入金(+31)、 コマーシャルペーパー(+250)
固定負債	1,696	1,689	7	長期借入金(+8)
負債合計	4,442	4,058	384	
株主資本	1,973	1,971	2	利益剰余金(+35)
その他包括累計	293	325	△ 32	
非支配株主持分	436	458	△ 22	
純資産合計	2,701	2,754	△ 53	
負債純資産合計	7,143	6,812	331	
有利子負債	2,998	2,709	289	
ネットD/Eレシオ	1.1倍	1.0倍	0.1	
自己資本比率	31.7%	33.7%	△ 2.0	

【資産の増加 +331億円】

売上債権(+73)
棚卸資産(+161) など

【負債の増加 +384億円】

仕入債務(+77)
コマーシャルペーパー(+250)
など

連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	26年3月期 1Q	25年3月期 1Q	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 41	△ 96	55	・税金等調整前四半期純利益 (111) ・減価償却費(のれん含む) (48) ・投資有価証券売却損益<益:△> (△18) ・売上債権の増減額<増加:△> (△72) ・棚卸資産の増減額<増加:△> (△157) ・仕入債務の増減額<減少:△> (79) ・法人税等の支払額 (△45)
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 126	△ 47	△ 79	・有形固定資産の取得による支出 (△53) ・利息および配当金の受取額 (11)
財務活動による キャッシュ・フロー	190	100	90	・短期借入金の増減額<減少:△> (5) ・コマーシャルペーパーの増減額<減少:△> (250) ・長期借入金の増減額<減少:△> (43) ・子会社株式の取得による支出 (△34) ・配当金の支払額 (△30)
現金・現金同等物の 期末残高	489	331	157	—

政策保有株式の縮減を継続

通期計画

2026年3月期 通期計画修正について

- 1Q実績を踏まえ、通期業績予想の営業利益・経常利益を30億円上方修正する
- 中期経営計画で掲げた構造改革※などが進行中であり、特別損益に一定程度の変動が見込まれることから、現時点で当期純利益は据え置きとする(※資産効率化を含めた様々な施策)

		25年3月期 実績(A)	26年3月期 当初計画(B)	26年3月期 修正計画(C)	当初計画比(C-B)	
					増減	増減率
売上高	(億円)	10,786	10,800	10,800	0	0.0%
営業利益	(億円)	304	270	300	30	+11.1%
(営業利益率)	(%)	2.8%	2.5%	2.8%	0.3%	-
経常利益	(億円)	323	260	290	30	+11.5%
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	(億円)	233	175	175	0	0.0%
(ご参考)一株当たり当期純利益	(円)	461.90	347.44	347.44		

業績予想のセグメント別内訳

(単位:億円)		25年3月期 実績(A)	26年3月期 当初計画(B)	26年3月期 修正計画(C)	前年対比(C-A)		当初対比(C-B)	
					増減	増減率	増減	増減率
水産資源	売上高	1,276	1,348	1,348	72	+5.6%	0	0.0%
	営業利益	△ 39	6	6	45	-	0	0.0%
食材流通	売上高	7,511	7,316	7,316	△ 195	△2.6%	0	0.0%
	営業利益	180	152	170	△ 10	△5.6%	18	+11.8%
加工食品	売上高	1,798	1,926	1,926	128	+7.1%	0	0.0%
	営業利益	139	128	136	△ 3	△2.2%	8	+6.3%
その他	売上高	202	210	210	8	+4.0%	0	0.0%
	営業利益	23	△ 16	△ 12	△ 35	-	4	-
合計	売上高	10,786	10,800	10,800	14	+0.1%	0	0.0%
	営業利益	304	270	300	△ 4	△1.3%	30	+11.1%

<営業利益修正ポイント>

<水産資源> 据え置き

北米の収益改善策は計画通り。一方、漁業は構造改革が進むも、魚価低迷が続いており、下期価格動向を慎重に勘案

<食材流通> +18億円

欧州事業の好調継続と、買収した子会社の連結化による貢献を見込む

<加工食品> +8億円

販売好調が2Q以降も継続する見込み

(国内・海外 営業利益内訳)

国内 132億円

海外 168億円

セグメント別の業績見込みとユニット別の事業環境

セグメント・ユニット		業績見込みと事業環境
水産資源	(業績見込み)各ユニット、当初利益計画から修正はあるも、セグメント全体では当初計画どおり進捗	
	漁業	構造改革は進むも、マグロ、カツオ、イワシの価格が低迷しており、厳しい収支状況が続く見込み
	養殖	生産コスト(資材費、人件費、物流費、飼料代)は高水準で推移する見込み
	北米	改善策は下期も継続、スケソウダラ相場は回復傾向も、ミールの相場変動を見込む
食材流通	(業績見込み)国内・海外ともに順調な進捗を見込む	
	水産商事	国内・欧州ともに水産物需要が堅調に推移する見通し
	食材流通	原料コスト、物流費は依然、高値水準を見込む
	農畜産	調達コストは高値水準が継続、国内市場は低価格志向
加工食品	(業績見込み)海外の進捗が順調、3Q以降の関税影響の動向を注視	
	加工食品	ペットフード(タイ)は堅調の見込みも米国関税影響は注視
	ファインケミカル	主要顧客の在庫調整やサプリメントなど健康食品の需要低下

※セグメント別の2026年3月期取組み詳細は2025年5月16日開示の「2025年3月期 決算説明会 説明資料」10頁以降をご参照ください。

企業変革費用の内容と四半期別の支出イメージ



2つの戦略「バリューサイクル」「グローバル戦略」の実現の土台となる「挑戦」と「共創」の企業文化醸成のために、企業変革を実施

金額			内訳	狙う効果
26/3期	50億円		1. 本社移転 (2026年3月に実施)	従業員の意識改革・「挑戦」と「共創」の企業文化醸成
3年間合計 26-28/3期	100億円		2. CIブランディング (2026年3月に社名変更)	社外:新CI認知向上及びブランド力強化 社内:新CIのもとでグループ一体感醸成、シナジー効果創出
			3. パッケージ改定	→社外:新CI認知向上
※投資を含めると150億円				

<項目別の年度別・四半期支出イメージ> ※色の濃さで支出の大小を表現

項目	26/3期				27/3期	28/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q		
本社移転費用						
CIブランディング費用						
パッケージ改定費用						
費用合計	50億円				30億円	20億円

Appendix

連結損益計算書

(単位:億円)

	26年3月期 1Q	25年3月期 1Q	増減
売上高	2,636	2,569	67
売上原価	2,251	2,213	38
売上総利益	385	357	28
販売費・一般管理費	291	280	11
営業利益	94	77	18
営業外収益	19	34	△ 15
営業外費用	19	12	8
経常利益	93	99	△ 5
特別利益	18	1	18
特別損失	1	1	△ 1
税金等調整前四半期純利益	111	98	13
法人税等	30	23	7
非支配株主に帰属する四半期純利益	16	10	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	65	65	△ 0

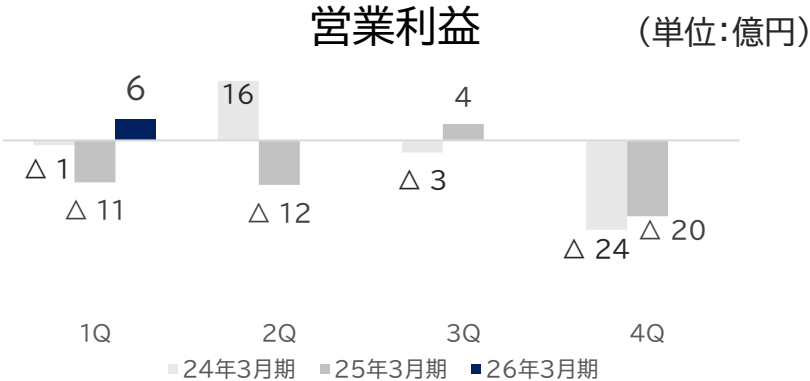
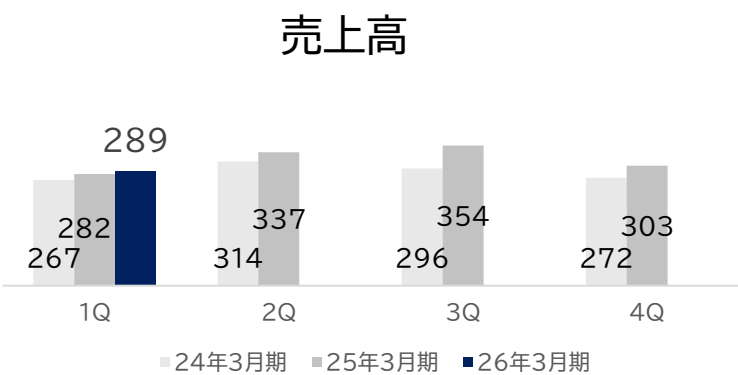
<営業外費用の内訳>

・為替差損 8億円

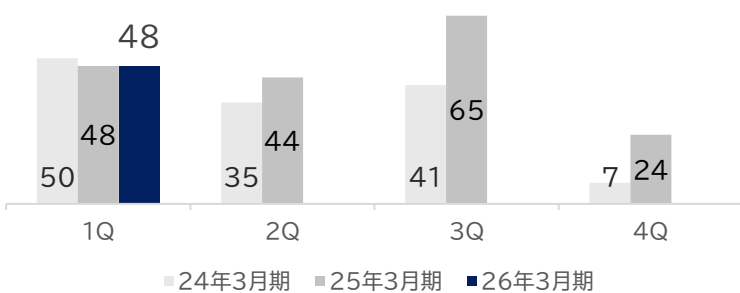
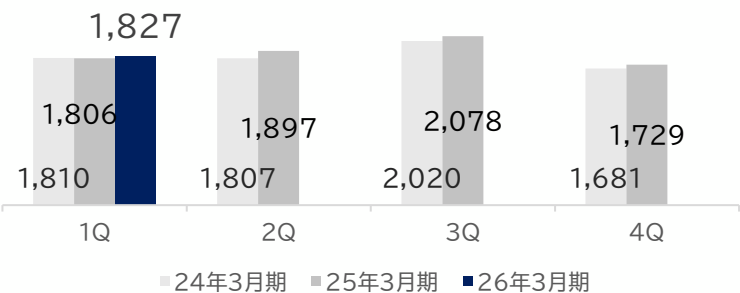
<特別利益の内訳>

・投資有価証券売却益 18億円

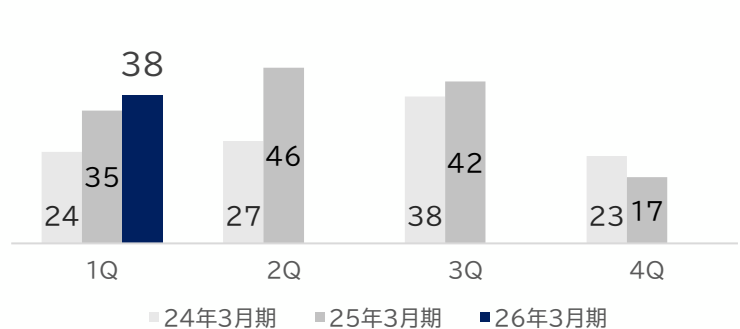
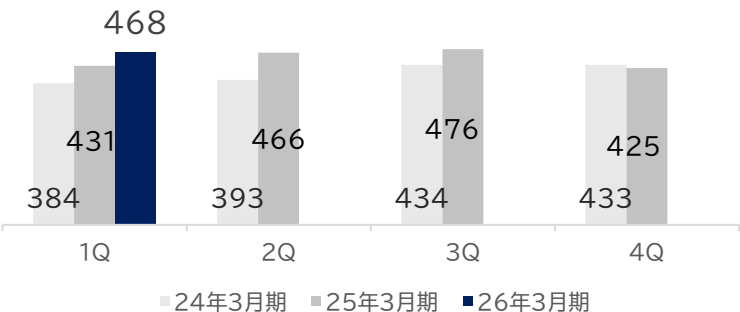
水産資源



食材流通



加工食品



セグメント別・ユニット別 業績予想内訳

(単位:億円)	売上高		営業利益			
	25年3月期 実績	26年3月期 計画	25年3月期 実績	26年3月期 計画		
				当初計画	修正計画	当初計画比
漁業ユニット	386	366	△ 12	10	△ 1	△ 11
養殖ユニット	174	186	△ 11	△ 2	4	6
北米ユニット	717	796	△ 16	△ 1	3	4
水産資源セグメント 計	1,276	1,348	△ 39	6	6	0
(国内 内訳)	603	661	△ 24	△ 13	△ 6	7
(海外 内訳)	673	687	△ 15	19	12	△ 7
水産商事ユニット	4,184	4,078	111	93	111	18
食材流通ユニット	2,405	2,535	54	54	54	0
農畜産ユニット	921	703	15	5	5	0
食材流通セグメント 計	7,511	7,316	180	152	170	18
(国内 内訳)	6,274	6,030	123	98	106	8
(海外 内訳)	1,237	1,286	57	54	64	10
加工食品ユニット	1,719	1,845	127	117	125	8
ファインケミカルユニット	79	81	12	11	11	0
加工食品セグメント 計	1,798	1,926	139	128	136	8
(国内 内訳)	1,212	1,289	53	51	54	3
(海外 内訳)	585	637	86	77	82	5
その他	202	210	23	△ 16	△ 12	4
合計	10,786	10,800	304	270	300	30
(国内 内訳)	8,275	8,172	164	110	132	22
(海外 内訳)	2,511	2,628	140	160	168	8

※2025年5月12日公表の決算短信補足資料からの変更箇所を青字で表記
 ※国内…マルハニチロ(株)+国内連結子会社の合計、海外…海外連結子会社の合計

新組織体制(2026年3月期より)で組み替えた
セグメント・ユニット別、四半期別の実績推移をExcel形式でご用意いたしました。
[こちら](#)からダウンロードしていただきますようお願いいたします。

Thank You



MARUHA NICHIRO

For the ocean, for life

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。